

平成28年度発掘調査遺跡の紹介

柄目木遺跡

(阿賀野市下ノ橋・小里)

柄目木遺跡は、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する古代（奈良・平安時代：8世紀後半～9世紀前半）と中世（鎌倉・室町時代：13世紀後半～14世紀後半）の遺跡です。国道49号阿賀野バイパスの建設に伴い2008年度から6次にわたって発掘調査を実施してきました。最後となる今年度は、延べ792㎡（中世319㎡+古代473㎡）を調査しました。

中世の調査では、5基の井戸などを検出しました。一方、当時の人々が住んだ掘立柱建物は、今回の調査区より南西側の2008年度調査区に集中しており、ムラの中で土地の使い分けがなされていたようです。また、井戸に溜まった土を洗浄してみると、炭化したコメや種実が多く見つかりました。今後の分析によって、当時の環境や食生活の様子を知ることができるかもしれません。遺物は、土師質土器、陶器、磁器などが出土しました。陶器は、能登半島で生産された珠洲焼を主体に、地元の笹神丘陵産も少量認められます。

中世の調査面より30cmほど下層にある古代の調査では、1棟の竪穴建物などを検出しました。竪穴建物は古代の一般的な住居形式で、方形の浅い掘り込みの一边にカマドが備え付けられています。竪穴建物とその周辺からは、煮炊きに使用した土師器の甕や、盛付け用の須恵器の杯などが出土しました。

柄目木遺跡の周辺には、大型の掘立柱建物群や唐三彩が見つかった山口遺跡（古代）や、旧百津潟に面した流通の拠点である境塚遺跡（中世）などが存在します。柄目木遺跡は、こうした大規模な集落の周辺に立地する一般的なムラの一つであったと考えられます。

(小野本 敦)



空から見た柄目木遺跡(西から撮影)



中世の井戸の断面(深さ約2m)



古代の土師器の甕

新潟県埋蔵文化財センター
開館20周年記念

新潟県指定考古資料展のご紹介

新潟県埋蔵文化財センターで開催中の「新潟県指定考古資料展」の5遺跡と出土品をご紹介します。

五丁歩遺跡出土品（南魚沼市）－火炎土器を持たない山間部のムラ－

縄文土器と石器41点展示。魚野川上流の河岸段丘にある縄文時代の代表的な環状集落です。当遺跡の土器の文様は群馬・長野県のものに似たものを中心となりますが、魚沼地方に多い火炎土器はありません。四本脚を持つ脚付土器は、関東系の文様を持ち類例のない形です。五丁歩の人びとは各地との交流を持ちながらも、独自の文様を生み出したものと考えられます。また、繊維加工用と見られる板状石器や土掘り具の仲間の片刃打製石斧など魚沼地域以外ではあまり見ることでできない、特徴的な石器も注目されます。

裏山遺跡出土品（上越市）－弥生の高地性環濠集落－

弥生土器と石器、玉類、鉄製品など98点展示。遺跡は周りより約70mも高い丘の上に8軒の竪穴建物があり、頂を濠（空堀）が囲みます。防御的な性格が強いこの形のムラは高地性環濠集落と呼ばれます。竪穴建物に蓄えられた武器と思われるごぶし大の「つぶて石」からは、弥生時代後期の争乱が新潟にも及んだ可能性が窺えます。土器は北陸地方と共通性を示すなかで、北近畿や信州方面との交流を表わすものもあります。鍬・鋤先は特徴的な形から北部九州や朝鮮半島製と見られます。これらの出土品は広い地域との交流を知らせるものです。

余川中道遺跡出土品（南魚沼市）－古墳築造に関わった人びと－

古墳時代の土器と石製模造品など198点展示。当遺跡は六日町盆地西側の扇状地端部にあります。遺跡には住居や水田のほか、大量の土器を集めた土器集積遺構が複数あります。そこには石製模造品の祭祀具もまわって、水田近くの祭祀の様子が分かります。水田は1枚が約2m四方の小さなもので、水田の形や土器集積遺構などは群馬県や長野県との共通性があり、地域間の交流が窺えます。近くには魚沼を代表する県指定史跡である古墳時代中期の飯綱山古墳群もあり、その造営にも深く関わった人びとの遺跡と考えられます。

柿崎古墓出土品（上越市）－特等の葬法－

平安時代の須恵器・灰釉陶器壺、水晶玉など5点展示。高田平野東部の水田中にある新保遺跡で発見した墓は、地名から柿崎古墓と呼ばれます。棺を木枠で囲い中に木炭を詰める構造から木炭榑木棺墓と言います。木枠の四隅には須恵器と灰釉陶器の壺が各2個置かれていました。壺の一つには「石神」の墨書があり、死者を悪霊から守る意識が窺えます。墓の時期は壺の年代から9世紀後半と見られます。墓の類例は少なく四隅の壺の副葬は国内初です。

木崎山地鎮具（上越市）－人々の願いと畏れ－

鎌倉時代の古瀬戸四耳壺、密教法具など44点展示。当遺跡は柿崎の独立砂丘にあり、古代から中世の遺構が集中します。土坑から古瀬戸四耳壺に納められた銅製の密教法具と五鈷鈴など12点が出土しました。この壺と法具は土地神を祀り、ささげものとして埋納した地鎮具です。古瀬戸四耳壺は頸を外し、地鎮具を納めた後に漆で接いでいます。ほかに中世土師器皿や朝鮮陶器皿をまとめて埋納した遺構もあり、地中に納める行為に中世人の心の呪術的あるいは儀式的な意識が見え隠れします。

（田海 義正）



展示説明パンフレット（16P）
新潟県埋蔵文化財センターで配布中

埋文コラム

いし ぼう ちょう
石包丁ってどんな石器？

石包丁は、稲の収穫に使われたと考えられていて、弥生時代を代表する石器として学校の教科書にも掲載されています。ここでは実際に石包丁とはどのような石器なのか、また新潟県内の出土例にはどのようなものがあるのか見ていきたいと思います。

通常石包丁とされるのは長さ数～十数cm、幅数cmの半月形やかつお節形で、全面が磨かれて中央1・2か所に孔が開けられた石器です。磨製石包丁と呼ばれ、教科書などで見かけるのはこのタイプのもので（写真上）。しかし、石包丁にはいろいろな形や大きさのものがあり、平らな石を打ち欠いただけで形を整えた打製石包丁、きわめて大型で全面が磨かれた大型磨製石包丁（写真中）、板状の石をそのままや刃の部分だけ磨いて使った大型直縁刃石器などが石包丁の仲間（以下、「石包丁類」と呼びます。）とされています。

私たちは、教科書に掲載されている磨製石包丁がふつうと思いがちですが、実際は磨製石包丁がわずしか出土しない地域も珍しくありません。新潟県では弥生時代中期を中心に40点ほどの石包丁類が出土していますが、典型的な磨製石包丁は上越市吹上遺跡など数例で、大多数は大型直縁刃石器です。このほか注目すべき事例として長岡市水上遺跡、村上市道端遺跡（埋蔵文化財センター常設展示室に展示中）の刃渡りが20cmを超える大型磨製石包丁などがあります。

このようにいろいろな種類のある石包丁類はどのように使われたのでしょうか。最初、磨製石包丁はアラスカのイヌイトの女性が包丁として使っていた石のナイフに形が似ていることから、このように名付けられました。その後、類似資料が東アジアなどに広く分布しており、稲作と一緒に大陸から日本に伝わったと考えられることから、アジアの稲作農耕民が使用する穂摘み具と同じように使われたとされました。

近年は使用によって生じた刃の摩耗や刃こぼれを顕微鏡などで調べる石器使用痕分析しやうこん ぶんせきによって、磨製石包丁や打製石包丁など小型のものは稲の穂摘み、大型磨製石包丁や大型直縁刃石器は根株から刈り取る作業（根刈り）に使われたと推定されています（写真下）。品種改良が進んでいない当時の稲は、米の熟す時期が穂によって異なっていたため、穂ごとに摘みとる穂摘みによる収穫が行われたとされています。根刈りは米の収穫よりも、穂摘みによる収穫後に行われた稲わら利用のための刈り取りや稲以外の雑草などの除草・草取り作業の可能性が高いと考えられています。だとすると新潟県など磨製石包丁の少ない地域では、稲穂の収穫に使われた道具が非常に少ないこととなります。そこで、石包丁類以外の道具、たとえば他の石器、木や金属で作られた道具などが使われた可能性も考えられていますが、詳しいことは分かっていません。石包丁はまだ謎の多い石器なのです。

（沢田 敦）



磨製石包丁(上越市吹上遺跡)
上越市教育委員会蔵／新潟県立歴史博物館提供



大型磨製石包丁(左:長岡市水上遺跡、右:村上市道端遺跡)
左:長岡市教育委員会蔵／新潟県立歴史博物館提供



石包丁の使用法(左:磨製石包丁、右:大型直縁刃石器)



第21回発掘調査報告会のご案内

新潟県埋蔵文化財調査事業団は、新潟県教育委員会の委託により、県内の国道建設などの公共事業によって遺跡が壊される前に事業者の負担で発掘調査を行っています。この報告会では、近年行った発掘調査成果の報告と記念講演会のほか、阿賀野市教育委員会の協力を得て石船戸遺跡の出土品を展示します。

□期日 平成28年10月23日（日）

講演会10：30～12：00（開場・受付10：00）

報告13：00～15：00 展示9：00～16：00

□会場 新潟ユニゾンプラザ（新潟市中央区上所2-2-2）

□定員 400名（申込み不要） □参加費 無料

新潟県埋蔵文化財センター開館20周年記念講演会

「「二つ一つ」の縄文思想」 小林達雄氏（國學院大學名誉教授）

報告 ○山口野中遺跡（阿賀野市／縄文時代晩期の川辺の集落）

○蕪木遺跡（阿賀野市／平安時代の大型建物）

○境塚遺跡（阿賀野市／鎌倉～室町時代の道と町）

○堂古遺跡（上越市／鎌倉～室町時代の集落）

展示 ○石船戸遺跡（阿賀野市／縄文時代後晩期の土器と土偶）

○狐塚遺跡（阿賀野市／弥生時代の土坑墓と壺）

○堀越館跡（阿賀野市／室町時代の館と茶道具）

○二反割遺跡（上越市／平安時代の生活用具） ほかに報告4遺跡の出土品も展示



境塚遺跡の一括出土銭を初公開



「まいぶん職員講座－わたしの研究最前線－」を開催します

当事業団の職員が日ごろ行っている研究の成果を紹介する講座を開催します。少し専門的な内容ですが、この機会に考古学の世界に触れてみませんか？

□会場：新潟県埋蔵文化財センター □参加費：無料



六反田南遺跡の貝殻状剥片

回	日程	タイトル・講師・内容	定員	受付締切
1	12月11日(日) 13:30～15:30	「縄文人のクリ果実の保存方法と剥き方」・荒川 隆史・縄文遺跡から出土したクリ果皮の分析と実験考古学を通して、縄文人のクリ果実の保存方法と剥き方を考えます。	60名	12月9日(金)
2	1月15日(日) 13:30～15:30	「先史時代の技術伝統－糸魚川市六反田南遺跡出土貝殻状剥片の顕微鏡観察－」・沢田 敦・糸魚川地区において縄文時代から古墳時代まで使われた貝殻状剥片の分析から、先史時代の技術伝統について考えます。	60名	1月13日(金)
3	2月12日(日) 13:30～15:30	「越後平野の遺跡から検出された花粉について」・春日 真実・草本花粉と木本花粉の比率を検討し、越後平野の弥生時代～中世の開発について考察します。	60名	2月10日(金)
4	3月5日(日) 13:30～15:30	「古代岩船 荒川流路を考える」・鈴木 俊成・岩船郡を流れる荒川の河口が古代に人工開鑿されたとする説について、最近の調査成果をもとに考えます。	60名	3月3日(金)
申込方法	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団に電話・ファックス・メールのいずれかで、氏名・住所・電話番号・希望日をお申し込みください。受付は先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。 ■電話 (0250)25-3981 ■Fax (0250)25-3986 ■メール niigata@maibun.net			



イベントの開催状況

7月に企画展が開幕し、これに伴うリレー講演会・展示解説会・体験コーナーを第3回まで開催しました。リレー講演会は、展示遺跡の発掘調査に携わった専門職員が画像を用いて遺構・遺物を解説しました。参加者からは新たな発見があったことや分かりやすかったとの声が寄せられました。展示解説会では専門職員が40分かけて隅々まで解説しました。古代の技術を体験できるコーナーでは、勾玉作りや山ブドウ樹皮を使ったペンダント作りなどを行いました。次回10月9日（日）は火起こし体験、11月13日（日）はペンダント作りを行いますので、ぜひお越しください。

8月には恒例の親子考古学教室を開催しました。火起こし、土器作り（15・21日）、勾玉作り（20日）体験のほか、今年はワークブックを使用した学習を取り入れました。本物の土器片を手にとって、土器の文様や裏面に付いているおこげ、普段見ることのできない土器の断面などを観察しました。参加した児童は、真剣にスケッチをしていました。ワークブックには、まとめや感想のほか、自分で表紙を作る枠を設け、夏休みの自由研究に活用いただくよう工夫しました。



第1回リレー講演会の様子



親子考古学教室で土器をスケッチ



FacebookとTwitterのご紹介

メールマガジンに加え、今年の7月からSNS（FacebookとTwitter）の配信を開始しました。埋蔵文化財調査事業団の展示情報や講演会・現地説明会・イベント情報などをいち早く皆さまにお届けします。文字だけではなく、埋蔵文化財調査事業団の仕事や発掘現場の様子の写真も配信しています。幅広い年齢層の方に情報をお届けできればと思います。少しだけ考古学の世界を覗いてみませんか？皆さまのアクセスをお待ちしています。

～埋蔵文化財調査事業団の情報を配信しています～

○Facebook

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

<https://www.facebook.com/公財新潟県埋蔵文化財調査事業団-310525152669205/>



○Twitter

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

@niigata_maibun

https://twitter.com/niigata_maibun



○メールマガジン

※ご希望の方は、件名を「まいぶんメルマガ希望」として受信メールアドレスを明記のうえ、右記メールアドレスにお送りください。 Mail : niigata@maibun.net



まいぶんちゃんのアイコンが目印です

県内の遺跡・遺物94

いわ や さん せつ くつ
岩屋山石窟

(昭和47年3月28日 県指定史跡名勝天然記念物 (史跡))

遺跡所在地：佐渡市宿根木字岩谷188

所有者：宗教法人 称光寺

佐渡島の南端に位置する小木海岸は、中新世の枕状溶岩が露出し、隆起海触台が発達しているほか、大小数十の海蝕洞が形成されており、国天然記念物及び名勝に指定されています。岩屋山石窟は、この海岸を望む標高約90mの通称「岩屋山」の中腹部にあります。国の重要伝統的建造物群保存地区の宿根木から北東800mの地点です。かつては海面付近にあった石窟も隆起によって現在の位置になりました。

石窟の奥行きは不明ですが、間口5.45m、高さ最大6.0mを測ります。窟内の側壁には、大小8体の磨崖仏が彫られており、北壁に並ぶ3体は平安時代、または鎌倉時代の作とされています。新潟県社寺帳には「称光寺受持観音堂」とあり、その由緒に「大同参年弘法大師の開基にして窟内岩壁側面に阿弥陀・釈迦・大日如来を安置せし旨、現今の本尊は文和2(1353)年に時宗遊行八世渡船上人が当地に来られし時に安置の由」とあります。

昭和42(1967)年・59(1984)年の2回の発掘調査が行われ、窟内及び前庭部から縄文時代早期・前期・中期・晩期、古墳時代、古代、中世、近世の遺物が



沈線文系土器

出土しました。特に、縄文時代早期の沈線文系土器は、佐渡島における最古の土器として重要な発見となりました。また、賽銭として使用された139枚に上る出土銭貨のうち、寛永通宝が最も多いことから、観音信仰のピークが江戸時代であったと考えられています。さらに、人骨やウシなどの獣骨を含む土坑も江戸時代のものと推定され、石窟が信仰の場のみならず、墓域として利用されていたことも実証されました。岩屋山石窟は、隆起した海蝕洞という特異性ともあいまって、本県の民間信仰の歴史上貴重な遺跡として、昭和47年に県指定史跡名勝天然記念物(史跡)に指定されました。

現在、石窟には磨崖仏のほか、江戸時代中期までさかのぼると考えられる観音堂・磨崖仏門構え・前門の建築群が残っています。これらは腐朽が進んでいるため、平成28年度から修復等の保存管理事業が行われています。また、出土品は佐渡市海運資料館に展示されています。(荒川 隆史)

参考資料：

小木町教育委員会1984『天然記念物及び名勝佐渡小木海岸保存管理計画策定報告書』

小木町教育委員会1986『岩屋山洞窟遺跡』

宗教法人 称光寺2016『平成27年度 新潟県史跡「岩屋山石窟」保存管理計画』

資料提供：佐渡市教育委員会



石窟出入口(北西から)



北壁に並ぶ3体の磨崖仏(主仏)

埋文にいがた No.96

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250) 25-3981
FAX (0250) 25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 阿部印刷株式会社

『埋文にいがた』96号 正誤表

頁	行	誤	正
3	写真上段	新潟県立歴史博物館提供	新潟県立歴史博物館 <u>館</u> 提供
3	写真中段	新潟県立歴史博物館提供	新潟県立歴史博物館 <u>館</u> 提供